

令和5（2023）年度
事業計画書

（令和5（2023）年4月1日から令和6（2024）年3月31日まで）

目次

本年度事業計画について.....	1
I. 長期構想および中期計画.....	2
II. 重点施策.....	3
1. 新 LMS の導入と利活用の推進.....	3
2. 学生の多様性に応じた支援.....	3
3. 特色ある研究のための支援強化.....	3
4. 中期的な入試戦略の策定（付属中学校・高等学校）	4
III. 主たる事業.....	5
<大学>.....	5
教育.....	5
研究.....	8
学生支援.....	9
地域・社会貢献.....	12
<付属中高>.....	13
教育.....	13
生徒支援.....	14
生徒募集.....	14
地域・保護者連携.....	14
<基盤>.....	15
施設・設備.....	15
管理運営.....	15
経営.....	17
財務.....	18

建学の精神

- 一、真実を求め至誠を捧げよう
- 一、正義を尊び邪悪を除こう
- 一、和平を願い人類に尽そう

本年度事業計画について

本学では「真実を求め人類社会の和平の実現を念願する立正精神に基づく教育を行い、有能な人材を育成する」という寄附行為に謳われた本学園の目的を遂行し、国内外の社会の発展に寄与すべき教育・研究活動とその体制を整備して未来像を描く事が使命です。特に本学で「社会貢献」を重視した事は、「立正安国論」に示された「立正精神」を継承し、正しきを立てて国や社会の平安と人びとの安寧実現を目指す事に通じてまいります。

令和4（2022）年度に開校150周年の節目を迎え、立正大学学園の更なる発展を期し、長期構想「立正グランドデザイン」を発表しました。「多様性を尊重し、伝統と新たな知を融合することで、社会に革新をもたらすことのできる人材が集う学園」を基本コンセプトに、多様化が進む変化の激しい時代において、積み上げた歴史や伝統を背景に、新たな価値観の「受容」と「融合」をもって「革新」をもたらす立正ブランドの確立を目指してまいります。そのためにも第1次中期計画において推し進めた品川キャンパスの施設整備事業、熊谷キャンパスでの新学部設置など、新たな資源を最大限活用してまいりました。

令和5（2023）年度より取り組む第2次中期計画では、新型コロナウイルス感染症を契機に加速する教育研究活動のDX化や教学マネジメントシステムの構築、多様化する学生への支援体制整備等、社会ニーズへの対応はもとより、中学高等学校における「R-プログラム」をはじめとする特色ある教育プログラムの開発や研究支援ならびに地域連携、アフターコロナを見据えた正課外活動への支援等を通して学園としての活力をさらに高めるための事業を重視した内容としております。

150年の歴史と伝統を持つ本学にみなさまの深いご理解をいただくとともに、新しい時代を拓く人材の育成により一層のご支援を賜われますよう何卒よろしくお願い致します。本学園の新たな中・長期計画を遂行すべく、教職員の皆さんの叡智を結集し、教育・研究、社会貢献の推進に向けて異体同心で取り組んでまいります。

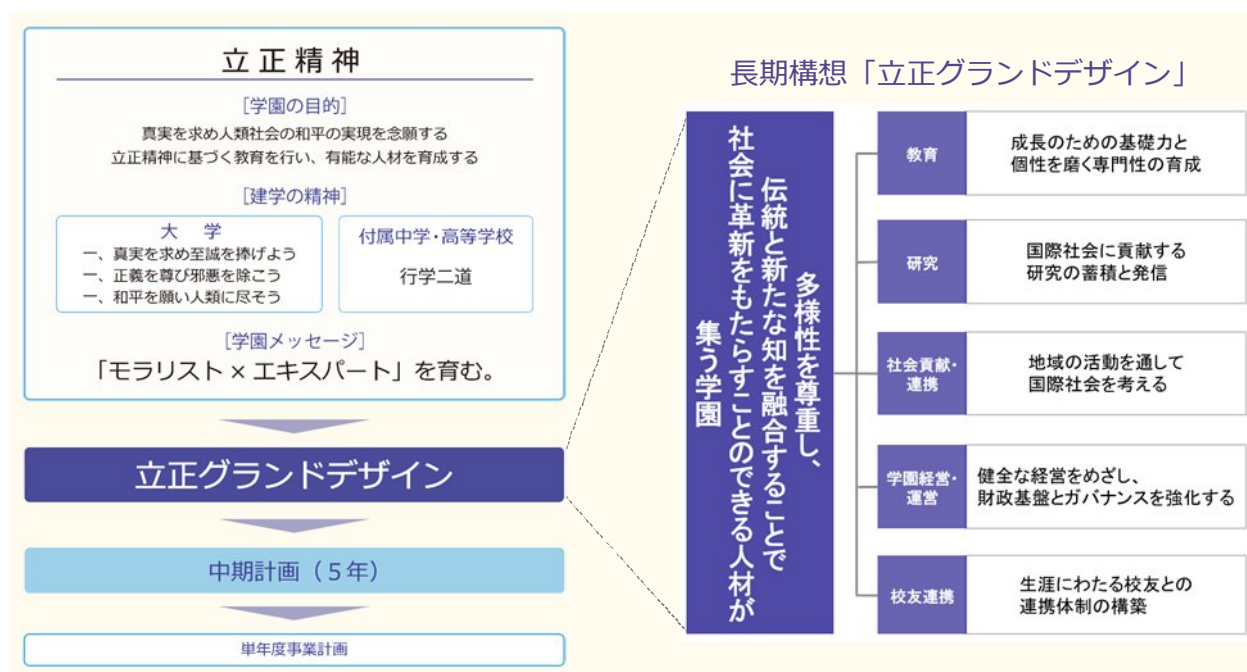


学校法人立正大学学園 理事長 望月 兼雄

I. 長期構想および中期計画

1. 長期構想「立正グランドデザイン」

立正大学学園は、開校 150 周年を迎えた令和 4（2022）年に、永続的に学園を発展させていくための指針となる長期構想「立正グランドデザイン」を策定しました。本構想では、本学園がこれまで培ってきた歴史や伝統と革新とが融合する、新たな学園の姿を示しています。



2. 第 2 次中期計画および単年度事業計画

長期構想「立正グランドデザイン」を具現化していくための第 1 フェーズとして、5 か年の行動計画である第 2 次中期計画（2023～2027 年度）を策定しました。第 2 次中期計画では、以下の観点から 39 個の具体的なアクションプランを立案し、各年度策定する事業計画において具体化を図り確実な実行に結び付けています。

[第 2 次中期計画基本方針と 5 つのフレーム]

基本方針：社会ニーズへの対応とオリジナリティの確立

- I 教育の質向上（大学・大学院・中高）
 - 教学マネジメント体制の強化等を通じた学修者本位の教育へのより一層の転換
- II 研究活動の活性化 - 本学の特色を活かした異分野研究活動によるイノベーションの創出
- III 社会貢献・連携 - 社会ニーズを捉えた活動の推進と教育活動への実装
- IV 学生受入・支援 - 多様な生徒・学生・教職員がお互いの個性を認めあうキャンパスづくり
- V 経営基盤強化 - 教育研究活動の持続可能な発展と整備および学園改革を進めるための基盤強化

※長期構想および中期計画の詳細は本学公式ホームページ（下記 URL）よりご覧ください。

https://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/index.html

II. 重点施策

以下の4つを本年度重点施策として掲げ、立正グランドデザインおよび立正大学学園第2次中期計画の実現に向けた確実なステップアップを図ります。

1. 新 LMS の導入と利活用の推進

新型コロナウイルス感染拡大時に実施されたオンライン授業の教訓と成果を活かし、これからはオンデマンド授業やアクティブラーニングの手法を取り入れた授業（反転授業、オンライン・ポスターセッション等）、さらには e-Learning 教材の活用など、メディア授業をより効果的・効率的に運用することが求められます。そのため、本学にふさわしい新 LMS を導入し、教員・学生にとって利便性の高い学びの仕組みを構築することでその利活用の推進を図ります。

2. 学生の多様性に応じた支援

UNIVAS の積極的活用とネーミングライツに関する規程制定など、正課外活動の支援と活性化を行います。また、障害者に対する合理的配慮の提供義務化を控え、障害学生支援室の体制強化をはじめとした学生支援体制の強化を図ります。

3. 特色ある研究のための支援強化

導入中の産学連携コーディネーターや地域連携コーディネーターの機能を維持発展させ、学内リソースを共有することで、研究者の負担軽減を図ります。また、リサーチ・アドミニストレーター（URA）の雇用に向けた課題を整理し、研究支援体制の最適化を進めます。さらに、大学院生ならびに博士後期課程修了生による研究補助者（RA・PD）の雇用制度も整備します。そのほか、埼玉県東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）との連携、既存の協定機関との連携強化、特色ある学内共同研究の支援、大型研究への応募促進により、大型外部資金の獲得を推進します。

4. 中期的な入試戦略の策定（附属中学校・高等学校）

中学入試においては、特化型入試および適性検査型（総合思考力型）入試を計画・実施します。特化型では、英語1教科に特化した入試を実施し、英語力のさらなる増強を図り、適性検査型では、高度かつ多様な学力を持った生徒を獲得します。

高校入試においては、多様な入試科目の中から得意科目を選択しての受験を可能とし、特に高い英語力を有した生徒を獲得できるような入試制度を計画・実施します。

また、在学生・卒業生データから通学圏を分析し、生徒の出身学校を中心に戦略的な訪問を行うことで、さらに通学圏を広げるべく学校広報の強化を図ります。



III. 主たる事業

重点 当年度重点施策関連事業

中期 中期計画関連事業

<大学>

教育

新 LMS の導入と利活用の推進 重点 中期	
目的	対面・オンライン・オンデマンド授業など新たな授業スタイルに利用可能な e-Learning 教材を開発・活用し、メディア授業をより効果的・効率的に運用できる教学情報システム（LMS）を整備する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システムトライアル導入とトライアル運用の開始 ・利活用促進のための FD 研修会開催

多様な教育手法の導入 中期	
目的	柔軟性のあるアカデミック・カレンダーの導入によるアクティブラーニング、e-learning 等の ICT を活用した授業、補習授業、入学前教育、デジタル教材の活用など多様な教育方法による授業を展開する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新アカデミック・カレンダーの早期運用開始に向けた関連規約類の整理と学内環境整備 ・60%以上の科目でアクティブラーニング手法の導入 ・多様な教育方法の展開に向けた授業支援室等の相談員配置の調整、導入機器等の選定などの環境整備計画の作成

学修成果の把握と可視化に向けた情報整備 中期	
目的	ディプロマ・ポリシーに即したアセスメント（アセスメントテスト、学修成果・満足度調査、学修成果検証等）の実施と学修成果可視化に向けた情報整備・手法を開発する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントテストの実施と受検率向上（受検率：60%目標） ・学修成果・満足度調査の実施と回答率向上（回答率：60%目標） ・情報整備と手法開発

大学院における教育の充実と研究の深化に向けた改革推進		中期
目的	大学院教育の充実と研究の深化に向けた改革を推進し、定員未充足を解決する。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生に特化したキャリア支援策の作成 ・研究科間連携における課題洗い出し ・就学・留学生支援策の作成 ・社会ニーズに応えるリカレント教育に関する対応策の作成 ・教育方法の多様化への課題の洗い出し ・海外協定校の開拓と連携促進策の作成 	

教学マネジメント体制の整備と全学教育推進センターの機能強化による「教育改革の推進と教育の質保証」		中期
目的	教学マネジメント体制の整備による教育の質保証および教育改革を推進する。また、全学教育推進センターの機能強化による FD・SD の高度化、教学 IR 機能の集約・強化、学修成果可視化を推進する。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教学マネジメント体制の設計と規程の策定 ・全学教育推進センター規程その他各種委員会規程類の点検と改正 	

全学共通科目の構築		中期
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生が履修可能な教育プログラムを設け、立正大学らしい特色ある全学共通科目を開設・運用し、全学 DP を担保する。 ・1万人規模の総合大学としてふさわしいキャリアサポートを実現する。 	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全学共通科目「データサイエンス入門」の運用開始と履修者増に向けた展開 ・現行「キャリア開発基礎講座」の改変と 2024 年度からの全学共通科目化に向けた学則変更の完了 	

高大連携の強化		中期
目的	附属校等出身の学生を対象に一貫教育体制を確立し、社会で活躍できる人材を育成する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなキャリア教育プログラムを中心とした附属校向けの高大連携教育プログラムの検討、開発 ・高大連携教育プログラムの対象となる「提携校」制度の創設 ・附属校協議会の複数回開催 	

MLA と NLC による学修支援体制・研究支援体制等の拡充		中期
目的	図書館における学修支援・研究支援体制等の改編を通じ、学生・教職員の幅広い学びや活動を支援する。	
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、博物館、古書資料館、ロータスギャラリー、史料編纂室、学部資料室における業務連携体制づくりと企画実施 ・RiLLCom、RiLLPort、RiLLFore 等を活用した創造的学修支援の実施 	

多様な資質を持った学生受け入れのための入試制度分析		中期
目的	入試制度の分析・検討を行い、建学の精神に合致する多様な資質を持った学生を広く安定的に受け入れる。	
当年度達成目標	学校推薦型選抜入試と総合型選抜入試の有効活用に向けた入試分析の実施	

研究

特色ある研究のための支援強化 重点 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究専念時間確保と研究の高度化を推進する。 ・研究効率化のための支援体制を強化する。 ・若手研究者、博士後期課程学生に対する研究環境整備と研究支援制度を拡充する。
当年度達成目標	研究環境や研究体制の課題整理と課題解決のための体制に関する協議実施

外部研究資金の獲得 中期	
目的	外部資金獲得により研究を活性化し、研究・教育の好循環環境を創出する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次中期計画における関連事業実績の整理・検証 ・支援策のあり方の検討と新たな実施計画の策定

研究不正防止対策の強化 中期	
目的	高い研究倫理に基づく研究を全学展開する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関連規約類の検証と学内諸組織における研修状況の把握 ・研究不正防止対策の課題整理と対応方針案の協議、作成

建学の精神に基づく特色ある異分野融合研究の推進 中期	
目的	総合大学としての特色を活かし、国際社会に貢献する異分野融合研究を行うことにより、社会課題の解決と研究ブランディングを推進する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・異分野融合研究の実績や大型共同研究（国際・国内）のリスト作成 ・課題解決を目的とした大型競争的研究費の調査 ・重点研究テーマと支援策（例えば研究者交流会の開催）の検討

研究成果・学術資産のデジタル化および公開 中期	
目的	DX等の技術を活用し、総合大学としての学問特性を踏まえた研究成果や学術資産の公開を推進する。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果：登録対象の条件等の検討と整備 ・学術資産：学部等でのヒアリング、目録等の作成と現物照合

学生支援

学生生活支援・協議体制の再編成・強化 重点 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援窓口の分散解消のため窓口統合を実現し、適切かつ迅速な支援を行う。 ・専門性を備えた相談員（キャンパスソーシャルワーカー等）を配置し、学生の多様なニーズに対応する。 ・合理的配慮の提供義務化に備え、教職員の理解増進と障害学生支援室の機能強化を図る。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制ワンストップ化の具体策と教職協働による支援枠組みの検討、提案 ・障害学生支援コーディネーターの増員と障害学生支援室の常時開室の実現 ・教職員の理解増進と障害学生支援室と学部・研究科との連携強化を目的としたFD研修会の複数回開催

大学スポーツ協会（UNIVAS）の積極的活用 重点 中期	
目的	大学スポーツ協会（UNIVAS）を活用し、学生アスリートが生き生きとスポーツと学修に取り組むことにより、正課外活動の活性化を行う。
当年度 達成目標	大学スポーツにおける「デュアルキャリア」（学業・競技活動などを通じて自身のキャリアをより豊かにするための取り組み）プログラムの開始

多様な進路を視野に入れた課外講座の再編・拡充 中期	
目的	専門職公務員等の多様な進路を視野に入れた課外講座を再編・充実させる。
当年度 達成目標	課外講座のガイダンスにて当該専門職の紹介を実施

課題解決型インターンシップの創設		中期
目的	アクティブラーニング方式を採用するインターンシップを開設・受講し、問題発見能力・問題解決能力や現場適応力を身につけた、雇用先で即戦力となりうる学生を養成する。	
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ企業（5社）の開拓 課題解決型インターンシップの実施（各社5名程度） 	

新規英語外部テスト（CASEC）の導入・実施		中期
目的	受験者に合わせて出題難易度が変動する英語外部テスト（CASEC）を導入し、英語を学びたいと思っているが苦手意識のある学生の学習意欲を向上させる。	
当年度 達成目標	語学研修および中・長期留学事前事後の CASEC 受験実施（50 名程度）	

グローバルカフェおよびイングリッシュキャンプの実施		中期
目的	グローバルカフェの設置やイングリッシュキャンプの実施を通じ、日常的に多言語に触れるキャンパスづくりを行い、グローバル化の推進を図る。	
当年度 達成目標	グローバルカフェ、イングリッシュキャンプの内容を検討と設置・実施案の作成	

立正大学英語スピーチコンテスト		中期
目的	英語スピーチコンテストを開催し、本学学生の英語への関心とグローバル意識を高める。	
当年度 達成目標	熊谷キャンパスでの英語スピーチコンテストおよび関連イベントの実施	

キャンパスのグローバル化とダイバーシティの推進 中期	
目的	多様性を意識した構成員からなる「和平キャンパス宣言策定委員会（仮称）」を設置し、キャンパスの多様性とグローバル化を推進する「和平キャンパス宣言（仮称）」の策定に向けた取組みを実施する。
当年度 達成目標	「和平キャンパス宣言策定委員会（仮称）」設置と宣言策定に向けた活動の開始

安心・安全なスポーツ活動のための環境整備 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「立正大学スポーツ憲章」の下でスポーツ倫理を確立し、学園・大学内の位置付けを明確化する。 ・安全・安心なスポーツ環境の適切な整備し、選手の育成、学修の充実、地域連携と貢献を目指す。 ・強化クラブと熊谷キャンパスのスポーツ施設を核とし、学生、教職員、校友会、地域の後援会等が構成員となる、スポーツ・コミュニティの設立を目指し、応援文化を醸成する。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ環境および強化クラブ運営の現状把握（経費、施設、支援等） ・学内外組織との連携強化推進にあたっての問題点整理、先進事例調査

全学的なボランティア活動の推進	
目的	全学をあげてボランティア活動を積極的に推進し、建学の精神を体現する学生を育む。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動推進センターの品川拠点設置計画の策定 ・ボランティアコーディネーターを新規採用

地域・社会貢献

地域との連携強化（品川区・大田区・熊谷市など）		中期
目的	キャンパス立地自治体の地域課題解決にコミットし、積極的に貢献することで、大学と地方自治体を持つ知識・情報・ノウハウ等をもとに協働し、地域社会における諸活動を学生教育の実践の場としていく。	
当年度達成目標	学内の既存取り組みおよび地域課題の把握・検証、基本方針の策定、連携強化計画の検討	

生涯学習プログラムの開発と拡充（地域社会や校友会との連携）		中期
目的	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層とニーズに対応した生涯学習プログラムを新規開発し、大学内にノウハウを蓄積する。 校友会や地元自治体との連携強化により、受講者数の増加を図り、地域の知の拠点化を推進する。 	
当年度達成目標	ニーズ調査（連携自治体における調査結果の再活用）および他大学の実施状況調査と基本方針・実施計画の策定	

防災力の向上と地元地域との連携		中期
目的	大学の防災力を向上させ、キャンパスの所在する自治体や地元自治会等との関わりを深めるとともに、学内における防災リテラシー力を向上させ、地元地域の防災をはじめとする諸問題にコミットする。	
当年度達成目標	学内体制（防災訓練、防災対応マニュアル、防災備蓄品等）の点検、教職員・学生の防災意識の把握	

博物館やロータスギャラリー特別展示室を活用した情報発信と社会貢献		中期
目的	博物館やギャラリーを大学と地域社会との接点と位置付け、開かれた施設運営を目指すとともに、総合大学としての学問特性を活かし、研究成果や学術資産の国内外への発信と、それらを活かした社会貢献を推進する。	
当年度達成目標	先進例の調査と学内現状把握の完了	

< 付属中高 >

教育

国際化する社会に向けた英語教育の充実のため、外部英語検定試験のスコアアップおよび「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指した教育を実施します。「英語で意見や意思を伝える」コミュニケーション力を身に着けるため、1グループ10人程度の少人数授業にも力を入れていきます。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い2022年度までは一部中止せざるを得なかった語学研修は、今年度は社会状況をみながら米国への短期留学、および福島県のブリティッシュヒルズでの English Camp を実施します。

近年、教育効果の向上を目的として実施してきた ICT 化については、今年度は更なる推進を行います。中学・高校すべての生徒に1人1台のタブレット端末を導入し、授業では双方向型・対話型のアクティブラーニングを実施します。また、家庭学習との連携を図るためオンデマンド型での宿題の配信・提出を行うなど学習活動の一層の充実を図ります。

ICT を活用した教育手法の充実と学校運営の推進 中期	
目的	ICT を活用した過去5年間の教育実績の蓄積を踏まえ、より良い教育手法を構築する。そのために、新機器・機能等の操作方法の研修を実施し、学校での授業と家庭学習をつなぐための機器・ツールの活用を行うことで、教育効果の充実を図る。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用機器の更新完了・供用開始 ・新機器・機能の操作講習の実施 ・機器・機能の活用状況の測定と目標設定
発表力を鍛錬する R-プログラムの推進 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが主体的に学び、自己理解を推進することで、社会の中でリーダーシップをとれる人間性を育成する。 ・学習意欲を喚起し、能力を最大限に発揮するための基礎力を育てる。 ・情報化社会の中で複数の情報や意見を踏まえながら、根拠に基づいた考えを持つようになるようにする。 ・「書くこと」への抵抗感を無くし、豊かな表現力を養う。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス内での意見発表を活性化させる方策の検討、実施 ・社会への意見発表の機会の検討・整理と生徒周知 ・「Research」ステップにおける高大連携の可能性検討、実施

生徒支援

保護者・生徒と担任間の連絡をオンライン化しながら、家庭と学校との連携を密にし、教育環境の充実を目指していきます。

生徒の健康・衛生面については学校医との連携を図り、適切な指導のもと、健康で安全な学校生活を送れるようサポートしていきます。

さらに、自転車通学可能な範囲を広げ、中学1年生からの利用を許可することで、近隣の中学生が通学しやすいように支援します。

生徒募集

中学12回、高校6回の入試説明会、オープンスクールや入試問題解説会、および文化祭や体育祭でも入試相談ブースを設置することで、本校の教育内容や特色の周知と受験生へのPRを行います。

都区内に限らず横浜・川崎・千葉方面でも外部での説明会を行い、積極的な募集活動を実施します。加えて、雑誌等への広告掲載や駅内の広告看板設置、および大手学習塾や個人学習塾にも広げた募集活動を実施します。

これらの多角的な募集活動を継続的に展開することで、「立正中学・高等学校」の知名度を上げていきます。

中期的な入試戦略の確立		重点	中期
目的	若年人口が減少する中で、安定的な入学者数を確保するため、受験生保護者の信頼を獲得できるような中期的な広報戦略を確立し、「行学二道」に示される立正の学びに合った、向上心を持ち自己を高めていこうとする生徒を集める。		
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外部相談会への参加回数の増加 ・受験者数の増加と入学者数の維持 		

地域・保護者連携

馬込キャンパスも移転11年目を迎え、地域の方もあたたかく「立正」を受け入れてくださるようになりました。これまで近隣の幼稚園・保育園の発表会やバザー、馬込地区小学校の交流大会への施設貸与を通じ、地域との交流を深めてきました。この結果、近隣の小・中学校からの入学者も増え、この先もさらに多くの受験生が見込まれます。

また、今年度は立正大学の研究推進・地域連携センターとも協働し、大田区・馬込地区とのさらなる協議・連携を深めていきます。

その他、品川区水泳連盟や大田区ホッケー協会、大田区サッカー連盟、大田区を本拠地とするプロバスケットボールチーム等とも定期的な施設貸与を通じ、地域との関係を強化していきます。

< 基盤 >

施設・設備

キャンパス・マスタープランに基づく施設整備の体制構築 中期	
目的	全学的な施設整備の指針となるキャンパス・マスタープランを運用し、持続可能なキャンパスづくりを実行する。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学園執行部ならびに関連部署とこれまでのキャンパス計画およびキャンパス・マスタープランについて共有 ・キャンパス・ファシリティマネジメントに基づく修繕計画（単年度）の策定

管理運営

ガバナンス・コード遵守状況の点検と改善サイクルの確立 中期	
目的	私学法改正を念頭に学内組織の点検を行い、ガバナンス体制が強化される組織改革を目指す。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス・コード遵守状況の点検体制の確立と円滑な運営 ・遵守状況の点検結果に基づく問題点等の洗い出しと組織運営改革の促進

「職員意識調査（仮称）」の検討・実施 中期	
目的	多様な働き方の創出および DX の推進やワークライフバランスの調和を通じて、労働生産性を向上させ、組織の活性化を推進する。
当年度 達成目標	「職員意識調査（仮称）」の調査内容（ライフステージの変化に伴う項目を含む）の方法等の検討と実施

卒業後の校友会活動の担い手作りを含めた校友連携強化 中期	
目的	学生が在学中から校友会組織を認知し、卒業後の校友会活動の担い手となるよう、学生生活での支援および就職支援が出来る体制作りを進めることで、卒業生が在学学生を支える関係構築を目指し、校友連携を強化する。
当年度 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生登録データの整備と宛先不明者の減少 ・ネット等を通じた卒業生への定期的な情報提供の仕組み作り ・卒業生による在学学生支援に関するアンケートの実施と支援内容の検討

高度な専門的知識を有する人材の有効活用	
目的	高度な専門性を有する「Specialist（仮称）」人材（主に専門業務に特化した人材）の採用・活用を行うことで、大学運営に求められる業務が高度化・複雑化する中でも安定的かつ発展的に業務が遂行できるようにする。
当年度達成目標	「Specialist（仮称）」人材の採用計画の作成、募集実施

内部質保証システムの見直しと新たな体制の整備	
目的	各種計画と連動させた新たな内部質保証体制の再構築に向けて検討を開始し、点検・評価活動とその結果に基づく改善の取組みを有効に機能させる。
当年度達成目標	第4期認証評価を見据えた内部質保証システムの再構築と組織体制の提案

大学の意思決定を支援する IR 体制の構築	
目的	大学の諸課題の解決や学長政策の実現、中長期的な経営戦略の策定を支援できるよう学内に点在する各種データの確認・整理、部署横断的なデータ収集・活用のための規程整備、データ分析実施および支援の体制整備を行い、エビデンスに基づいた政策決定が可能な体制を構築する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 既存の「大学基礎データ」を発展させた「立正大学基本データ集（仮称）」の提案 「インスティテューショナル・リサーチ推進規程（仮称）」の制定とデータ分析の代行・助言体制の提案

経営

中期財務計画の策定 中期	
目的	安定的かつ持続可能な財務基盤を確立・維持し、資金面から充実した教育研究環境を提供する。
当年度達成目標	決算や学内外の財政状況を踏まえた中期財務計画の策定・見直し

立正エンタープライズ株式会社の新事業の展開 中期	
目的	立正エンタープライズ株式会社で新事業を立ち上げ、収入の多角化に寄与する。
当年度達成目標	新事業候補および事業実施体制の検討

補助金獲得に係る学内横断的な協議体制の整備 中期	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の収益増加を目指す諸施策の一環として補助金獲得額（一般補助・特別補助）の増加を目指す。 ・日々の業務の中で補助金獲得を意識するための素地をつくる。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一般補助・特別補助の申請要件の理解を目的とした部署間協議体制の確立 ・補助金申請要件と現状の不足項目の確認と課題整理および学内共有

広報体制の整備・強化および大学公式ホームページリニューアル 中期	
目的	立正グランドデザインおよび第2次中期計画の進捗について広く社会に周知し、知名度を向上させると同時に、学内向け広報を充実・強化する。また、広報体制を整備・強化し、迅速、効率的かつ効果的な広報を実現する。
当年度達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広報連絡会議を利用した学園広報戦略の検討、策定 ・大学公式ホームページのリニューアルおよび学部オリジナルサイトへの検索システムの導入

財務

< 予算編成方針 >

学園の財政状況は、令和3年度事業活動収支計算書では、基本金組入前当年度収支差額が7.5億円の収入超過となりましたが、入学定員の未充足により学生生徒等納付金の収入見込額が予想を下回っています。現在、老朽化した施設の修繕が多数控えているほか、電気代や資材等の諸物価の高騰により、財政状況は厳しくなることが予想されます。このような状況のもと「立正大学学園第2次中期計画」実行のため、教育研究活動の安定した遂行と十分な財政基盤の確保の両立を図らなければなりません。収入では学費はもとより、それ以外の収入を強化するとともに、支出では引き続き費用対効果が最大化するよう十分に検討した予算編成を行います。

< 基本方針 >

- (1) 予算については原則として対前年度当初予算のゼロシーリングとし、過年度の予算対実績の消化状況が低い項目については、実績に近づけた予算申請とする。
- (2) 「立正大学学園第2次中期計画」実行にあたっては、予算申請内容を検討・精査のうえ、必要な配賦を行う。
- (3) 以下については特別予算として位置づけ、支出の必要性を審議のうえ配賦を行う。
 - ・学長政策費
 - ・学園ブランディング戦略予算費
 - ・予備費

< 予算編成の前提：収入予算と支出予算 >

- (1) 寄付金については、卒業生・在校生・教職員はもとより、関係企業からも広く募っていく。
- (2) その他の収入については、経常的な補助金の安定確保と外部の競争的資金等の継続的な獲得、資産運用などの多様な増収策に努める。
- (3) スクラップアンドビルドを徹底し、ゼロから新たに各予算を策定する「ゼロベース」の編成を原則とする。
- (4) 「立正大学学園第2次中期計画」および令和5年度事業計画に関する事業で、計画遂行に必要な予算は、総合的な観点から適正な金額についてのみ配賦する。
- (5) 老朽化施設の維持修繕費については、各施設の状況を的確に把握し、大学の方針のもと優先度を考慮する。



学校法人 立正大学学園 令和 5（2023）年度事業計画書

（問合せ先） 学長室 総合経営企画課 03(3492)6872

※事業計画書は学園 HP から PDF 形式にてご覧いただけます。

ホーム > 学校法人立正大学学園 > 立正大学学園の概要 > 事業計画と事業報告 > 事業計画

http://www.ris.ac.jp/rissho_school/about_school/plan_report/business_plan.html

令和 5（2023）年 3 月 27 日 理事会承認（令和 5 年 4 月発行）